



御堂筋 謎の彫刻たち…

淀屋橋から心斎橋にかけての2キロ区間、御堂筋の両サイドの歩道に点々と設置されている彫刻たち…。なぜこんな所に突然にも女体の彫刻が？と疑問に思われた方もいることでしょう。でもなんだかホッとするような出会いの気持もあり…。

大阪市は、格調高い魅力ある街並み作りをしたいとして、御堂筋を大阪のシンボルストリートに指定し、平成3年から『御堂筋彫刻設置委員会』なるものがスタートしました。市民や来訪者に親しまれる様な芸術のある街並に変化したい、世界に誇る芸術ストリートにしたいという思い、ちょっと大阪的とは思えない所が素敵ですね。彫刻のテーマは『人間賛歌』『人体』をモチーフにした物というのが条件で、別に女性の像という意味ではないようです。

最初の1体、オーギュスト・ロダンの『イヴ』が設置されたのが平成4年8月。そしてその彫刻達は、どれもこれも国内外の著名な彫刻家の作であり、20年後の今は29体にもなっています。しかし、どうやってそのような芸術性高い作品を集めることができたのでしょうか？まさかの税金投入？？いいえ、御堂筋の沿道企業から彫刻の寄付を募り、これを設置して行ったという所が素敵な計画ですね。しかもこの趣旨に沿道の大手企業が次々に賛同・協力したということも素敵な話です。

皆さんは、『彫刻に謎の赤い服事件』は覚えていらっしゃいますか？一晩のうちに、29体中19体の彫刻に赤い服の様な布が一斉に取りつけられていたという事件です。彫刻への破壊行為ではなく、単なる珍事というだけで済みましたが、これで彫刻達が有名になったとも言われています。しかし、物騒と思われる大阪の歩道に、このようなホンマもんの芸術作品を設置するというのは、かなり勇気のいることだったでしょう。誰かが引っこ抜いて持って行ったとか、叩き壊されたとか、落書きでいっぱいになったとか…。そのような心配はなかったのでしょうか？これが芸術の力なのか…。

29体の彫刻を観て歩く方々もおられ、写真撮影している人達もいます。2キロを東側と西側の歩道ですから合計4キロを歩けば29体全てを観られるというわけで、ちょっとした遠足気分。暖かくなったら是非とも一度、御堂筋彫刻ストリートにお出掛けください。ウォーキングをしながら芸術を楽しむ、気に入ったらずっと鑑賞する。体と心を同時に健康的にする良き一日になることでしょう。



オーギュスト・ロダン 作
「イヴ」



朝倉智子 作
「ジル」



澁井敏夫 作
「渚」

健康法師の独り言 パート 48

今年の冬は例年に比して、非常に寒かったようです。寒さで肩が上がって姿勢も丸くなって、さらに外に出かけるのもおっくうになって、活動自体が大いに低下してしまっています。この活動の低下は脳にも影響があるように思えてなりません。認知症が最近では頻繁に話題となりますが、脳を鍛えるというのは何歳になっても重要な事の様です。

大脳生理学の先生によると、度の過ぎた酒の飲みすぎも脳の委縮が起きて、認知症の原因となるといいます。人間生活には悲しみや喜びが付きものですが、自分の言動や心身を上手く調整して、脳を自己管理する必要があるというのです。私など、全く管理してきたって気分になれませんが、がつくり…。ありのまんまやってきた感があり、まわり人の脳にも迷惑だったのか…。

そんな脳を強くするには、『**あじ**、**手**、**足**』を活用することだそうです。『**あじ**』は良く噛んで咀嚼することで脳全体の血液循環を良くし、記憶力も良くなるということです。柔らかい物ばかり食べていてはいけませんね。唾液を出すことは重要で、脳全体のバランスを保つ意味があるということです。

『**手**』は、運動したり書いたりして脳と連動する重要な要素らしい。パソコンで打つばかりで、書いていない毎日ですねえ、いけません。最近ちょっとしびれています。

そして『**足**』を鍛える、歩く…。この軽い振動によって、脳のとっぺんにある『体性感覚視野』という所が大いに刺激を受け、感情や感動の情報が脳全体にばらまかれるという。つまり喜怒哀楽の中の特に『喜・楽』という感情が現れるということです。人間性を豊かにするために歩く！

ただし、歩くと簡単にいいますが、1時間・1万歩というのが基準というからには、結構な体力とスピードが必要というわけです。そして7時間以上寝る…。全ての要素を満足にはできないでしょうが、歩くという事は何にも増して重要な要素。わかっちゃいるけど、なかなか大変…。

そう考えますと、この寒い冬の私の生活態度は、大いに不健康法師だったというわけです。

最近、大笑いしないのはその為か…。活動の春！ やるぞ！ おしゃべり！ (ちょっとちがうなあ)

